小規模高齢化集落の密集地域分布および土地利用変化の傾向

高柳 誠也
東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻　景観研究室
連絡先: < seiya@keikan.t.u-tokyo.ac.jp >

(1) 動機: 人口減少社会に突入し，限界集落や消滅が危惧される集落（本研究では，これらを小規模高齢化集落と呼ぶ）が多く存在している．小規模高齢化集落は今後も増加すると予想されるとともに，小規模高齢化集落が密集している地域も存在することが予想される．現在，過疎地域や中山間地域における地域活性化に関する施策は国を中心に一律に行われており，地域の特性について考慮されているものは少ない．また，集落における地域づくり，むらづくりにおいては，単一集落における取組にとどまり，類似した条件における集落への方法論の展開などはあまりみられない．そこで，集落の個性と地域の特性を考慮することが難しい一律な施策とのギャップを埋めるために，小規模高齢化集落の分布とその土地利用変化についての地域性について把握することが必要だと考えている．

(2) アプローチ: 国土数値情報土地利用細分メッシュデータ（1976 年，2009 年）および国勢調査メッシュ統計（1975 年，2010 年）をGIS 上で結合したデータベースを作成し，農林業センサスによる農業集落を調査単位とした上で，農業地域類型区分ごとに分類を行い，小規模高齢化集落であるものを抽出した上で，空間解析を行った．また土地利用変化について，密集地域に分布する集落ごとに土地利用変化についてメッシュ数の推移を整理した上で，その変化（残存）割合と，標高・傾斜や人口に関するデータとの相関について分析を行った．

(3) 意義: 小規模高齢化集落は今後も増加すると考えられ，既に人口減少が進行し小規模高齢化集落の分布およびその土地利用変化について把握することは，今後の人口減少社会や小規模高齢化集落に対しての各種施策・取組を行ううえでの基礎的な知見になると考えられる．

(4) 特徴:

- 小規模高齢化集落は全国に分布しているが，地域によって農業地域類型区分ごとに偏在を観察することができる．
- 農業地域類型区分ごとの密集地域については，区分ごとに地域差を観察することができる．例えば，中間水田型では新潟県上越地域，広島県備北地域，山間畑地型では四国山地において特に密集していることがわかる．
- 山間畑地型においては，密集地域である徳島県および長野県南部および静岡県にまたがる地域において 1976 年および 2009 年における土地利用変化（残存）率と人口関連データとの間に相関をみることができた．
- それに対して，中間水田型の密集地域である新潟県上越地域においては土地利用変化（残存）率と人口関連データとの間に相関はみられなかった．

(5) 謝辞: 東大 CSIS 共同研究 No.746 の成果の一部である．

(6) 参考文献:

清水裕之（2015）標準地域 3 次メッシュを用いた日本の国土の土地利用の変化と人口・世帯変化の観察と類型化，「日本都市計画学会　都市計画論文集」，vol. 50（1），107-117

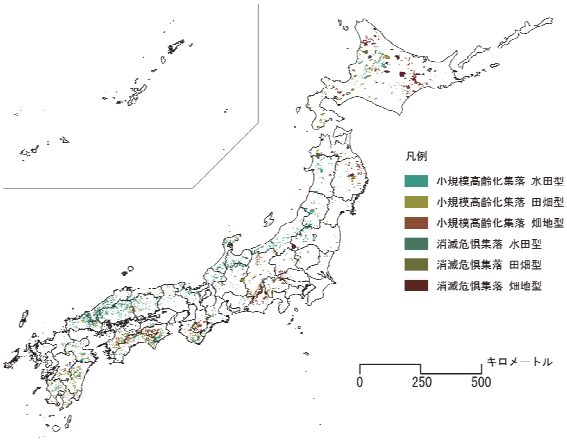

図 1：小規模高齢化集落の農業地域類型区分別分布図

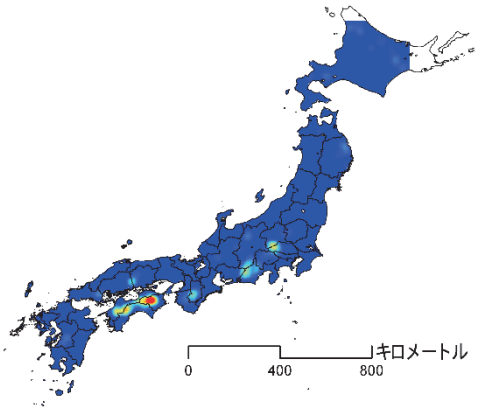

図 2：小規模高齢化集落（山間畑地型）のカーネル分布図